

平成30年司法試験 合格体験記

平成30年司法試験合格後中途退学（既修コース）岩倉 隼哉

岩倉隼哉と申します。岡山大学法学部を卒業後、15期既修として岡山大学法科大学院に入学し、無事平成30年の司法試験に合格しました。

在学生の皆様には言いたいことはたくさんありますが、文字数の関係から勉強中に自分が気をつけていたことを語らせていただきたいと思います。

まず、①常に試験勉強であることを意識していたということです。具体的には、答案を書く際は4枚型の問題(旧司法試験、予備試験等)なら70分、8枚型(司法試験)なら120分まで時間を計り、演習をしていました。また、答案構成にとどめる場合であっても、1問につき20～30分を限度として構成し、最終目標である試験と同一の時間配分のもとで行うように心がけていました。次に②自分の弱点を見極めるようにしていたことがあげられます。演習の後はずぐに自分の答案の自己分析(日本語の確認、省略すべきだった部分、短く書くべきだった部分の確認)し、そこから再現答案や優秀答案、解答・解説と比較をして、合格者ができていて自分ができていないことを抽出し、同じことを繰り返さないことに気をつけて次の演習に励んで、弱点をできる限り克服するようにしていました。加えて③条文の文言を大事にするということでした。勉強の初めや答案を書きなれていない時期には知っている論点ばかりを書いてしまう、いわゆる「論点主義」だったのですが、採点実感などを読んでいくうちに、このような答案ではだめだと気づき、それ以降は大きく意識を変更して「条文の文言に」事実を「あてはめる」ということを演習時に気をつけるようにしていました。

①～③は私が個人的にやってよかったと思うのですが、これらのことを意識すれば、現行司法試験の合格ラインには十分のことができると思いますので、在学生の皆様にもこれらを意識してがんばっていただきたいです。岡山大学法科大学院は、学生と先生方との距離が近く、先生方は授業の内外を問わず、相談に乗ってくださいます。先生方に①～③が出来ているのか、定期的に聞きに行くことをおすすめします(この意味で中間試験や期末試験を司法試験の勉強に活かすためには、試験前の無理矢理な詰め込みよりも試験後の勉強方針の見直しが大事になってきます)。先生方にこのような相談ができるというのは岡山大学法科大学院の強みであり、私自身が大学でなかなかできなかった部分でもあるので、入学する方は存分にその強みを活かしてほしいです。

最後にこの場を借りて、合格まで支えてくださったすべての方々に感謝の言葉を述べ、終わりたいと思います。